

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション3：政策決定へとつなげるための科学

Photo credit: Nick Hall

フンボルト海流プロジェクト

ペルーにおける零細漁業管理の非効率性を克服するための漁師との協働

アンコン、ペルー

1) 当プロジェクトの主眼点

本プロジェクトの目的はペルーにおける零細漁業管理への新しいアプローチを具体化することであり、アンコンで底生魚漁業を営む零細漁業者とザ・ネイチャー・コンサーバンシーとの協働学習として設計されている。アンコンは、ペルーの首都であるリマの北 46km に位置する漁業コミュニティであり、400 人以上の零細漁業者の拠点となっている。彼らは、3 マイル沖合にある 11 の島々が集まった「ペスカドレス諸島」で捕獲できる魚と貝類に頼っている。この島群は、SERNANP が管理する保護地域ネットワークであるグアノ島・岬国立保護区の一部である。

零細漁業は、ペルーの野生魚捕獲の 10% 近くを占め、国全体で消費される魚介類の約 80% を供給している。45,000 人以上の漁師たちが当部門に直接従事し、「オープンアクセス」体制で操業しており、「コモンズの悲劇」に関連する悪影響が予測されている。魚種資源の状態や漁獲努力量、管理の有効性や成果に関する情報はほとんどない。この知識の欠如は、非公式で弱いガバナンスと規則、制限された市場参入、国民による漁業改革への取り組みの少なさと相まって、持続可能性にとっての障害となっている。

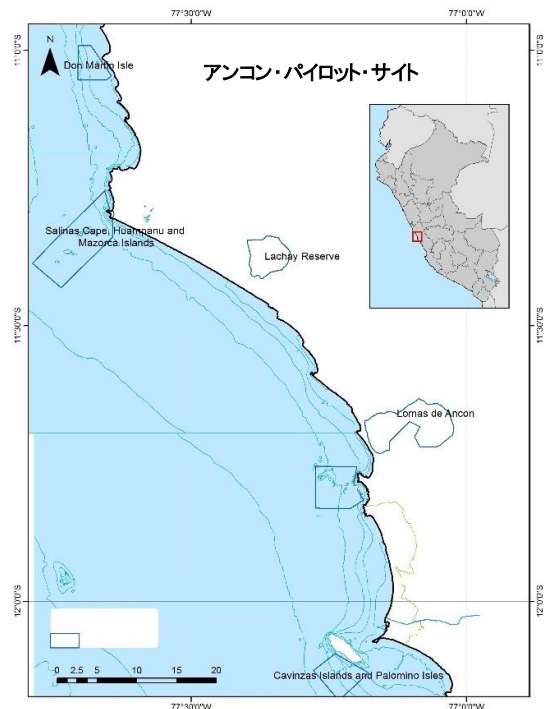
2) 参加組織およびその他のパートナー

プロジェクトの実施にはペルー海洋研究所 IMARPE および国立自然保護区管理局 SERNANP が参加している。

アンコンの底生魚漁業者・ダイバー協会は、ザ・ネイチャー・コンサーバンシーとの協力のもと、漁業資源の崩壊を引き起こした漁獲圧力の増加に対処するために、伝統的な漁場において自主的に実施された「ボトムアップ」措置の効果を評価する試みを行っている。これらの自主的措置には、漁獲抑制規則が含まれる。例えば、漁獲努力量抑制、サイズ制限、禁漁期、無脊椎動物の禁漁区域、および、合法統治制度に根ざしたコジツライアンス措置などである。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

2015 年 1 月、我々は、底生魚漁業者らが設定した禁漁区域が、一部の漁場の生産性に及ぼした影響を評価するモニタリングプログラムを開始した。主要漁場の 1 つ「イスレタ」という周囲 1.4km の小さな島を禁漁区域にした後、ザ・コンサーバンシーは、ダイバーたちが漁業資源の状態を判断でき、ダイバーらによる自主的管理措置の効果を評価できるようにするた



め、モニタリング技術について研修を行った。初期成果によると、禁漁の5ヶ月後、black rock snailの単位努力量当たり漁獲量(CPUE)は50%増加した。最初の結果を確認後、コミュニティは資源を完全に回復させるために、さらに6ヶ月間、禁漁を継続することに同意した。また彼らは、漁場における過剰搾取を避け、漁業活動をさらに安定させるため、輪番制での禁漁区域設定といった新しいアイデアを試すこともできた。「イスレタ」は2016年初めに禁漁が解かれた。その一方で、同様の禁漁区域が主要魚場である「ビッグアイランド」に設定された。漁師らは、彼らの測定や合意を有効にするために用いられた技術に、より精通したため、この設定以降、ごく基本的な活動から始まったモニタリングプログラムが複雑なものへと発展した。生物学、個体群動態学、漁業資源、海洋学に関するモジュールは現在、企業・組織研修で補完されている。

強調すべき肯定的側面の1つは、たとえ、経済的に不確かな生計手段のために収入が減少する可能性があっても、この漁師団体が、モニタリング技術を学習し、その知識を健全な管理措置を策定するために応用することに対して決意を示したことである。漁師らに、簡単で、すぐに適用できる科学的ツール・方法を使用させることは、経験に基づく意思決定過程を支え、彼ら自身による運営上の意思決定の見通しに関して、より自信が持てるように支援することに相当する。さらに、この知識に基づくエンパワーメントにより、買い手や各種当局とのやり取りについて、これまでとは違ったより積極的な態度で臨むことができるようになっている。

最後に、アンコンでの経験により、能力開発計画が漁師らのニーズを満たし、期待に沿うものであることを確認しながら、当計画を漁師らと共に策定する重要性が明確となった。この方法により、当事者意識と妥当性が高まり、漁師らは積極的に取り組みに参加するようになる。さらに、底生魚漁業者らは、学習・健全管理の主要推進者となりつつある。彼らは、自分たちの漁場だけではなく国中で、他の漁業団体に教えを広めている。その中から数人の推進者たちが現れ、肯定的で進歩的な変化を主導している。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび/または、同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

初期成果は期待の持てるものであったが、アンコンの漁師の能力を完全に構築するまでには、まだ長い道のりがある。漁師らの初期の知識・技能・態度レベルにもばらつきがあった。また、それぞれの漁師がそれまでに達成してきた進歩も様々であったため、特に、時間とともに任務が複雑になる場合、能力開発プログラムおよび各関係者の役割の永続的見直しを義務化した。

学習への需要増大により、供給側に課題が与えられる。我々は、アンコンにおける能力開発過程の継続性と妥当性を確保する必要がある。また我々は、当プログラムの規模が拡大し、全国に広がるにつれて、他の漁業コミュニティを支援するための仕組みを構築する必要がある。

最後に、我々は学習への投資を正当化できるように取り組む必要があり、実際に、習得した知識・技能を使用できるようにしなければならない。一般的に、能力向上は肯定的変化へと結び付くが、この肯定的変化が漁師にとって有意義な効果をもたらさない場合は、継続的な成果は得られない。もし、能力向上により、漁師の生活が実際に改善されなければ、今後の能力開発努力は、特に将来の世代のことを考えると危うい。

5) このプロジェクトの次の段階

次の段階には、能力開発プログラムの継続と拡大、その進捗と妥当性のモニタリングが含まれる。実際の自己研修・規模拡大能力を強化するために、特に「推進者」に対して、「指導者研修」アプローチを強化する。さらに我々は、相互訪問および会議、メディア・プラットフォーム(ラジオ、インターネット、ソーシャルネットワーク等)、既存の社会的つながりから学んだ知識の共有を促進させる。

また、当プロジェクトでは、「責任ある調達」慣行を実践し、持続可能な海産物の市場参入を増大させるために、漁師と地元の有名なシーフードレストランや海産物小売店との事業連携の構築を支援する。これらの新規事業を主導し、長期的な実現性を確保するための協定を実施するために、漁師およびレストランを対象とした研修も提供される。

現在のオープンアクセス体制が、ペルーの零細漁業部門で広がることを考慮し、我々は、アンコンの漁師に、MPAと重複する漁場への優先的アクセス権を与えるために、公園当局と連携する予定である。我々はこの措置が、ペルーの沿岸零細漁業における権利に基づく体制設立への第一歩となり、他の漁師らがアンコンの漁師により定められた制限規則に干渉することによる潜在的な悪影響を軽減できることを期待している。



写真1：「Pintadilla（タカノハダイ科）」の評価には、成熟度分析が含まれる。漁師らは魚の習熟度と、産卵したことがあるかどうかを見分ける方法について研修を受ける。



写真2：漁師らは、魚の正しい全長測定方法について研修を受ける。この情報は魚種資源状況評価に使用される。サイズ制限もアンコンの漁師らが使用する共通抑制規則である。



写真3：アンコンのダイバーであるエドガー・オスカノア氏が見せているのは、モニタリング活動中に採取された2杯のタコである。タコは、資源状況評価のために、サイズと重さを測定され、捕獲された全ての無脊椎動物は、海へ放される。



写真4：モニタリング活動の一環として、地元の漁師と共にタコの全長が測定される。



写真5：「ラ・イスレタ」で、技術者と漁師が共にモニタリング活動を行っている。上の写真では、イワガニの性別による違いなどの基本的な生物学的側面について、生物学者が説明を行っている。